

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	「訪問教育及びデュアルシステムを利用した進学・就職支援」		
法人名	学校法人 府内学園		
学校名	大学進学予備校 府内学園		
代表者	理事長 財前俊樹	担当者 連絡先	松尾敏生(まつおとしお) TEL097-546-5213
<p>1. 事業の概要</p> <p>昨年度、本学園NPOと連携したニートに対する職業教育支援事業(文部科学省委託)として、就職や進学に役立つ「各種検定及び資格取得を支援する講座」を開講したときの問題点として、①講座に参加したいが学校に対してある種のトラウマがあり校舎に入れない者がいること、②就職・進学したいがまだ不安を抱えている者がいること③企業・学校がニート経験者を敬遠すること等の問題点が残った。また、各NPOが抱えているいわゆるニートと呼ばれる人の中にも、学校の建物には入れないがアパートの一室を利用したフリースクールあるいはNPO法人事務局程度の建物には入れる者が多数いた。</p> <p>そこで、今年度は、当初、ニート等を抱える各NPO法人内で講座を開き、長いニート生活で学習になれていない者にはPC基礎・書道で学習意欲付けを、ある程度学習意欲もありかつ就職したい者には簡単な和裁と着付け(指導:朝来野学園)、和菓子洋菓子作り(指導:豊の梅園菓子企業組合)、CS検定(指導:府内学園及びPC関係講師)で就職先を、進学を希望する者には英語・数学・国語の学力アップ(指導:府内学園予備校)をして、進学先を模索させる。今年度は本学園の他に服飾専門学校を持つ学園の協力を得て、昨年に引き続き、進学希望者用講座、就職希望者用講座と学習意欲付講座の3つを開講する。開講当初はひきこもり・ニート等を抱える各NPO法人内で講座を開き、その後、授業会場を本学園内または他の借用実習会場に移し、外出に慣らしていく予定であった。受講者の中で希望者には、全面的に精神科医師・臨床心理士・キャリアカウンセラー等の全面協力を得て、企業での職場体験という所謂デュアルシステム行った。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>学習意欲付け講座担当者がそれぞれ4回ずつNPO事務所を訪問し、1ヶ月間事務所の中で講座を行なった。NPO事務所内では学習することを非常に楽しみにしていたが、NPO事務局以外の場所での学習は難しく、本学園に来校での学習はできないままであった。学園内の講座受講は比較的良好であった。その後の職場体験は、希望者(10名)のみで行なったが、教育期間が時間的に短く、企業への採用へはつながりにくい状況であった。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>本講座を経て就職につながった者はほとんどいなかった(34名中4名)。しかし、自分自身に自信を失い家庭にひきこもり、ニート生活を送っていた若者が、自信を取り戻すことが出来た。その根拠として、①全員が講座の内容に満足した回答を寄せていること、②引き続きの受講を希望し、他の官庁委託事業である類似した講座を捜し、受講予定としていることがあげられる。本講座の役割として、ニート・ひきこもりの方々の意欲付けの役割を果たしていたと思われる。</p> <p>③今後の活用</p> <p>本事業は無理なく、現在、ひきこもり及び自分自身に自信をなくしている若者たちに対する学習意欲付けとして本事業形態は最適であると思われた。そこで何らかの活用法を模索したい。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>ニート・ひきこもりの人たちを本事業単独で就職につなげるのは、①講座が多岐にわたっていること、②期間が短いこと等のため、専門知識を得ることが難しい。しかし、本講座はニート・ひきこもりの者の自信回復講座として、展開していくことが可能である。また自信喪失していた彼らにとって、本事業が、どの程度自己肯定につながったを数的に表す尺度がほしい。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

調査のねらい:講座に対して意見 感想を掌握するため、

対象:受講者全員 方法:アンケート調査

調査項目:①時間数 ②講師 ③時間帯 ④設備

⑤開催時期、⑥途中でやめたいと思ったことの有無を5段階評価で質問

①感想 ②指導先生に対する要望 ③来年のぞむ講座 ④その他所感について記述で質問

調査結果及び分析の内容:ほとんど全員が講座の内容、時間数、講師、設備に関しては満足を示していたが、時間帯、開催時期に関しては①午前中の時間 ②もう少し早い時期からの開催と長い期間の開催を、望んでいた。

②カリキュラムの開発

NPO訪問授業→学園内講座開講→希望者のみのデュアルシステム実施の一連流れを確立することを目的としている

③実証講座

テーマ:進学・就職支援講座

期間:8月～12月、受講者の属性:定職・学籍を持たない16～35歳前後の若者

受講者数:男子16名女子18名 場所:学校法人府内学園 学校法人:あさくの学園 豊の梅園菓子企業組合

受講者の反応:就職にはつながらなかったが、ほとんどの者が満足していた

④その他

事業の特色として、①NPO訪問支援の実施②希望者へのデュアルシステムへの連携が挙げられる。また本事業の特徴として ①それぞれ自分の希望する講座だけを選択し、過度の負担にならないようにすること ②自信回復につながるようにすることであった。本事業を通して、大分県内のニート・引きこもりに関係するNPO及び関係機関の連携ができたのも大きな成果である。